



脳梗塞に気をつけて！

脳梗塞とは、動脈硬化等が原因で脳の血管が詰まる病気です。血管が詰まると血流が途絶えるので、その先の脳の細胞は酸素や栄養が行き渡らなくなり死んでしまいます。すると、その部分の細胞が担っていた機能が失われてしまうため、重い後遺症が残ったり、時には命を落とすことがあります。

脳梗塞は、突然起こるイメージもありますが、前触れがある場合も少なくありません。正しい知識をもち、対応することが脳梗塞の発症を未然に防ぐためには非常に重要です。

脳梗塞の前触れ

脳梗塞の前触れのことをTIA（一過性脳虚血発作）と言います。これは、一時的に脳の血管が詰まり血流が途絶えた状態です。脳梗塞と異なるのは、血栓が短時間で溶けて、途絶えていた血流が再開

することです。そのため脳の細胞の損傷はほとんどありません。

TIAの症状

主に次の4つがあります。症状は、すべて体の片側だけに現れるのが特徴です。

○体の片側の麻痺やしびれ

軽い場合は気づきにくいので、両腕・両脚を同じ高さ上げ、片側の腕または脚だけが下がってこないかどうかを確認してください。

○顔のゆがみ、口元のしびれ

顔の麻痺が強いと、顔の左右の一方がゆがんだり、口元がしびれて左右どちらかの口角が下がったりします。「いー」と発音して左右とも口が上がるか確認します。

○ろれつが回らない

「らりるれろ」などの言葉がうまく言えなかったり、思うように言葉が出なくなりします。

○片側の視野が暗くなる

片方の目だけ一時的に見えなくなります。このような、TIAの症状が突然起こった場合は、約70%は脳梗塞によるものと言われています。1つでも当てはまれば直ちに救急車を呼ぶ必要があります。しばらく様子を見ていたり、翌朝まで待つてから受診しないようにしましょう。

以前は、TIAが起こっても症状が治まってしまえば様子を見ていてもありましたが、現在は症状が治まっても脳梗塞と同じくすぐに治療を行うというのが基本的な考え方です。また、TIAを起こした人の15%が3ヶ月以内に脳梗塞を発症しているとも言われていますので症状を見逃さないようにしましょう。

脳梗塞と生活習慣病の関係

脳梗塞の再発を防ぐためには、薬物療法とあわせて生活習慣病の改善に取り組むことも大切です。次の3つの生活習慣病は脳梗塞ともかかわりがあるので注意が必要です。

○高血圧

○糖尿病

○脂質異常症

これらの生活習慣病は、いずれも血管の内側を傷つけ、そこにコレステロールなどが沈着し血栓ができやすくなります。特に脳の血管や頸動脈(首の左右にある動脈)は血管が細いため血管壁が閉塞したり、詰まりやすくなります。

また、生活習慣病は重複するほど脳梗塞を起こす危険が大きくなっていくため、日頃から生活習慣病の予防をすることが大切です。

剣淵町不妊治療費助成のお知らせ

町では、不妊治療を受けている方への経済負担軽減などを目的として、不妊治療費の助成を行っています。

治療対象

タイミング法・人工受精による治療(平成23年4月1日以降に治療した方に限る)

申請期間

平成24年3月中
詳細は、剣淵町広報1月号に掲載されていますのでご参照下さい。